

ラベンダーの香りに包まれて
楽しかった夏の一日。

さがみはら グリーン



Vol.9

平成8年10月10日発行
編集・発行者 / 財団法人相模原市みどりの協会
発行所 / 〒228 相模原市麻溝台2317番地の1 市立相模原麻溝公園内
財団法人相模原市みどりの協会 ☎0427 77 2860

財団法人相模原市みどりの協会機関紙



ハーブの押し花で絵はがきやしおりを作りました。



河口湖ってひろいんだなあ...

7月22日(月)(財)相模原市みどりの協会主催による夏休み親子自然観察会が開催されました。これは、夏休みの一日、親子で自然に親しもうというもので例年行われています。

今回は、多彩なハーブの美しさと香りに触れながら、ハーブアレンジや河口湖湖畔の散策を楽しむという企画で、参加者は市内在住の51家族、119名のほりました。

当日は、ハーブ館においてハーブの押し花で絵ハガキなどを作ったり、湖畔を歩いたりして、一日たっぷり自然の中で過ごしました。思いがけずラベンダー摘みもできて、子どもたちも大はしゃぎでした。

来年の夏休みには、ぜひ親子で一緒に参加してみませんか。



ねえねえ...
今年もオータムフェアが
はじまるよ...

相模原
麻溝公園

オータムフェア 10/12(土)・13(日)

秋の週末、公園で緑に触れながら楽しいひとときを過ごしませんか



秋の動物フェスティバル
ポニーの乗馬、人形劇、モルモットルーレットなど
13日(日) 9:30~15:30 ふれあい動物広場
オータムコンサート
相模原音楽家連盟12日(土) 1回目 13:30~14:00
2回目 14:30~15:00 1・2回目ともふれあい動物広場ドーム内
竹トンボ講習会・竹馬試乗会
12日(土)・13日(日) 9:30~15:30 みどりの広場
パンジーの寄せ植えによる団体マスコット「かなべえ」花壇の展示
12日(土)・13日(日) センター広場
植木・野菜等の展示即売
12日(土)・13日(日) 9:30~15:30 水の広場

秋の公園スケッチ大会・展示会(子供の部)
子供の部(小学生以下100名) 12日(土) 9:30~ 雨天の場合は13日(日)
申し込みは当日管理事務所へ(先着順)クレヨン・画用紙贈呈、弁当等各自持参
作品展示は12日(土)~30日(水) 管理事務所 1Fホール
秋蒔き種の無料配布
12日(土)・13日(日) 9:30~先着600名 管理事務所前
京ヶ瀬村特産品展示・即売
京ヶ瀬村の各種特産品の無料配布及び展示即売
13日(日) 10:00~15:00 水の広場
お問合せは(財)相模原市みどりの協会 TEL0427-77-2860へ。

シクラメンを育てて。

街に師走の声が聞こえてくると花屋の店先を飾る、色とりどりのシクラメン。相模原市内でもシクラメンが栽培されているのを知っていますか。

今回登場していただいたのは、そのシクラメンを育てている天野國彦さんです。市内淵野辺本町にある温室で、約二千鉢を栽培しています。天野さんに花づくりのこと、みどりのことなどについて、お話を伺いました。



出荷最盛期になると、一面に花を上げたシクラメンを見ることができます。

いま、11月の出荷をひかえて、葉組みなど最後の手入れが忙しくなるシクラメン。



自分の手に合った育て方を見つけるしかない

シクラメンの栽培を始めて九年目になります。父の代までは露地野菜や桃を作ったり、養鶏をやったりしていましたが、私自身は何をやろうかも、後を継ぐかどうか、考えていなかったんです。東京農大へ進みましたが、その時も農業をやろうと決めて入学したわけではなく、ただ漠然とでした。シクラメンをやろうと決めたのは、大学で先生に奨められてからです。

卒業後、研修にも行きましたが、いざシクラメンづくりを始めるといろいろな苦労がありました。三年目まではなかなか思うようなものが出来なかつたり、アブラムシが媒介してウイルスが出たり、四年目からは県や市場の品評会でやっと賞をもらえるようになりました。その時はやはりうれしかったですね。

市内でシクラメンを本格的に作っているのは私だけだと思います。だから情報交換する仲間の多くは市外。みんな、いいものを作ろうと努力しているの、いろいろと聞いてみたりします。ただ土づくりにしても、牛ふんや赤土、腐葉土を使うわけですが、人によって使っているものがそれぞれ違うから、同じやり方してもまったく違う土が出来る。水やりにしても、たっぷりやる、と言ってもど



の程度をいうのか人によって違う。土地によって気候条件も違う。だから結局は、自分の手に合ったやり方を見つけるしかないんです。今でも、これでもいいのかと、自問することがよくありますよ。

一年一か月育て、花を見られるのはひと月だけ

タネをまいてから花を咲かせ、出荷するまで一年と二か月かかります。その間、成長に合わせて四度、植えかえをします。店頭に並ぶシクラメンは、葉がきれいに並び、花が中央に集まって立っているでしょう。あれは花が明るい方に向かって咲くという性質を利用したもので、葉の向きを一枚一枚揃えてまん中だけをあげるように並べれば、自然と花は光の当たっている中央に向かって伸びて咲くというわけです。

その葉を揃える作業を葉組みというんですが、それをコツコツと丁寧にやるかどうかで、形の違いが出るかどうかが決まるんです。「シクラメンづくりに必要なものは？」と聞かれたら、忍耐と努力、と答えますね。シクラメンを育てている一年一か月のうち、私たちが花の咲いているのを見られるのは一か月だけなんです。きれいに咲くまでが私たちの仕事ですから。毎年、十一月二十五日ごろから出荷します。初荷じゃないけど、その年の初めての出荷の時には車をきれいに洗い、一鉢一鉢愛情込めて大事に積みまます。

手をかければ、それだけ応えてくれるのが植物

市場へ出荷するほか、小売りもやっています。直接お客さんと話をすると、こういうものが喜ばれるのか、こういうものを欲しがっているのかなど、いろいろなお話がわかってきますし、育て方など質問にも答えることができます。買ってくれる人の顔が見えるというのもそうですが、花が長くもつたよ、などと言ってもらえたりすると、作者者としてうれしいものです。やはり買ってもらうわけだから、一日でも長くきれいに咲いて欲しい。大事に扱うことはいいんですが、水をやり過ぎて枯らしてしまうこともあるんです。水は控えるために、陽当たりがよくて温度が低めの場所に置くのがいいんです。寒さには比較的強いけれど暑さには弱いんです。出来れば七、八度ぐらいの温度のところがいい。

植物は手をかければかけただけ応えてくれる、人間と違ってね。ものづくりに携わる人はみんなそうだと思いますが、それが大きな魅力なんじゃないでしょうか。でも逆に手を抜けばそれなりのものにはならない。メシが欲しいって言うてるのにやらなければ、一回なら許してくれるかもしれないけど、二度三度だと許してくれない。(花に対しては)こつちも懸命にやってるんだからオレについてこいってという気持ちです、真剣勝負ですね。

身近なみどりに親しむことから理解を

こういう仕事に関わっている者としては、農地がだんだん減っていくのは淋しいものです。みどりで覆いつくされていくところなんて、本当に少なくなっていますよ。木やみどりというのは、きれいなイメージがありますけど、葉が散ると、それはゴミにもなる。街路樹の葉は歩道に散らばるし、時には雨どいをつまらせたりすることもある。きれいなみどりと相反することもあるわけです。よくみどりを考えるシンポジウムなどありますが、保護していくことももちろん大事だけど、住宅地においてはそういうところに

も視点を向けて、みどりと上手に共存することも考えていかなければならないのでは、と思いますね。私のところにも(花を)見せてくださいと通りががりなどでも来る人がいます。その時にはどうぞと、見ていってもらう。私に出来るのはそのくらいしかないけど、少しずつでもそうやって、身近なみどりに接して親しみや理解を深めていくことが、大切なのではないのでしょうか。

シクラメンの「裏作」にキバナコスモスなども作っているそうです。こちらもきれいですね。



これはオマケのカットです。スイカってこんな風になっているんですね。4つに切ってラップしてあるんじゃないんだ。(カメラマン)



シクラメン
サクラソウの近縁種。原産地は地中海沿岸地方。野生種は7種ほどが知られているが、現在の園芸品種のほとんどは、そのうちの1つ、シカム種(原種)といわれる品種(鉢ものとして栽培されるようになったのは16世紀後半といわれ、日本には明治中頃に渡来していた)という記録がある。

天野 國彦(あまのくにひこ)

1964年相模原市生まれ。東京農業大学卒。相模原花園代表。市内淵野辺本町在住。

